

# 3.30臨大へ圧倒的結集を！

日刊  
**動労千葉**

79.3.28

No. 73

国鉄動力車労働組合  
千葉地方本部

千葉市要町二一九(動力車会館)  
〔鉄電〕三五八・九(公巻)三三三(22)七二〇七

地本は、「千本指令第八号(三月一九日)」を发出し、三月三〇日一三時より千葉市・教育会館において、第三三回臨時地本大会を開催することを決定した。第三三回臨時地本大会は、千葉地本に対する統制処分組織破壊攻撃をねかえし、動労運動の戦闘的再生をかちとることである。われわれは、19、20の革マル分子による「破壊オルグ」を全支部の総決起をもって完全に粉碎し、勝利した。その決意と展望に燃えて、3・25三里塚現地集會へかかってない大動員をかちとり、

第33回臨時地本大会  
1979年3月30日 13時  
千葉市・教育会館  
3.30 ときところ

一四〇〇名組合員の決意を満天下に明らかにした。一方革マル分子は、このような一四〇〇組合員の怒りに燃えた総決起の中でなす術もなく反動的・執行権停止を「発動」し、同じ三月三〇日第一〇三回臨時中央委員会を開催し、この間の排除策動をさらにエスカレートさせんがための策動を行ってきた。われわれは、この間の勝利をもって、動労の変質を阻止し、本来の階級性、戦闘性をより強固に発展させる闘う方向性を打ちたてること

**動労改革へ向け、一四〇〇組合員の英知を  
もって、真の闘う方針を打ち出そう！**

### 3・30臨大の意義

この3・19、20不当・不法な「オルグ」の中で、動労の変質と革マルによる動労私物化、セクト的引きまわしは、より一層明白な事実として動労四万八千全組合員の前に突き出されている。あわせて、千葉地本の排除を企む革マル分子の不正義性とぜい弱性も暴露された。一方われわれは、2・10臨大において、①三里塚反対同盟との労農連帯を一層強固に打ち固め、三里塚・ジェット闘争を闘い抜くこと。②「貨物安定宣言」を廃棄し、新たな反合理化、運転保安確立の闘いを構築すること。③「水本事件の真実を究明する会」から直ちに脱会し、動労のセクト的引きまわしに断を下すこと。④一四〇〇組合員の強固な団結で動労の変質・私物化、一切の反動を粉碎し、動労の戦闘的伝統を継承・発展させること。を主軸とした方針を確認したことをはじめとして、労働運動の原則に踏まえ、八〇年代を闘える労働運動の方向性とその正当性を一四〇〇組合員全体のものとして確立し、この闘いを通して、動労全国四万八千組合員に向けて呼びかけてきている。

路線の正義性を鮮明にする闘い

革マル分子のいう、「厳寒期」だから、闘いを

回避してゆく、つまり、「貨物安定宣言」にみられる反合・実力闘争の放棄によって、政府・当局の「友軍」的な形に転落する路線。あるいは、「水本運動」のように、誰の目にも革マルの運動を、今日では名実ともに動労が闘いの中心軸をにない切っていること。さらに、「謀略論」をもってデマとペテンで組合員を引き廻している実態に対し、一四〇〇組合員はもとより、動労全国四万八千組合員に鋭く突きつけてゆく極めて重要な場である。動労千葉地本の揚げる四つの方針のもとに闘い抜く路線と、革マルの暴力支配セクトの引き廻しをもって「排除の論理」を全面的に打ち出した、まさに労働運動を逸脱した路線を、全国四万八千組合員に鋭く問う闘いでもある。

歴史を画する一大宣言の場

われわれは、真に八〇年代の労働運動を担い得る国鉄労働運動の組織造りと、動労の再生をかけて、3・30臨大において一四〇〇組合員の進むべき道を大胆に宣言してゆくべきではないか。